

組織学会通信

No.93

2023. 9. 20

【大会関係】

【1】2023年度組織学会研究発表大会報告

2023年度組織学会研究発表大会は、京都産業大学において、具承桓先生を実行委員長として、2023年6月24日（土）、25日（日）に開催されました。2019年に駒澤大学で開催された研究大会以来、実に3大会ぶりの研究発表大会での対面開催となりました。事前登録ベースで400名を超えるお申し込みをいただき、会場にも427名を超える会員の皆様にお越しいただき、盛況のうちに終了することができました。「やはり、対面の学会っていいなあ」という声が、会場のそこかしこから聞かれたように思います。

久々の対面での大会ではありましたが、開催校実行委員会の先生方、と事務局、当日現場でご対応いただいた学生スタッフのご尽力により、大きなトラブルなく実施できたように思います。他方で、発表者ご自身のPCトラブルに起因する発表の（若干の）遅延、PCをプロジェクタに繋ぐコネクタの持参忘れ、会場への忘れ物、予約されていたお弁当の受け取り忘れなど、対面開催ならではの、主催者の責に帰さない事由による小さなトラブルも散見されたように思います。今後の大会がどちらの形式で開催されるにしても、学会員の皆様には、大会を裏で支えてくださる実行委員会や事務局のご苦勞について一考いただいた上で、行動していただければ幸いです。いずれにしましても、上記すべての関係者のおかげ様で、大きなトラブルもなく盛況のうちに研究発表大会を終えることができましたこと、心より御礼申し上げます。

今回は、実に81もの研究発表が行われたこともあり、研究発表大会当日は、例年よりも多い6会場に分かれて研究報告が行われました。一日目の午前は大学院生セッション、午後から研究発表セッションと基調講演、二日目は一日かけて研究発表セッションが行われました。大学院生セッションは大会委員である司会者と発表者によって進められました。研究発表セッションは25分間、発表者が自由に時間を使っていただくという形で進められました。

一日目の午後の基調講演では、具承桓実行委員長が司会をされ、早稲田大学の藤本隆宏先生、同志社大学の加登豊先生のご講演及びパネルディスカッションが行われました。いまの日本企業、さらには日本社会が抱えている問題をそれぞれのご専門の観点から整理していただいた上で、日本の経営学にとっての挑戦とは何であるか、ということをクリアに描き出していただきました。今もなお、研究の第一線におられるお二方の言葉からは、日

本社会と日本の経営学に対する熱い思いが、溢れ出しているかのようでした。実に濃密な1時間でした。

一日目の最後のセッションは、総会でした。例年であれば、それに先立って高宮賞の受賞セッションが開催されるのですが、残念ながら今年度は、著作部門も論文部門も、該当者なしという結果となりました。夕刻以降は、大学内の並楽館にて、懇親会が開催されました。予想を上回る、200名超の学会員が参加し、熱い議論を交わし、また交流を深めました。

二日目の午前中は研究発表セッションが行われ、16時20分に全プログラムを無事に終了することができました。

二日間の長丁場において、受付のデスクで、また各会場で管理運営を行ってくださった京都産業大学の実行委員会の先生方には御礼申し上げます。大変お疲れ様でした。

次に大会委員会の活動について御報告いたします。研究発表大会のオンライン開催決定を受け、大会委員会は応募された原稿をもとに審査をし、発表の可否を決定いたしました。本大会での発表の採択数は81件、不採択数は2件(形式不備などにより)で、採択率は昨年より少し高い97.6%となりました。

大会委員会は例年通り、大学院生セッションで審査を行い、「ドクトラル・コンソーシアム」(略称「ドクコン」)参加メンバーの選出を行いました。ドクコンは、次代の若手研究者育成を目指す取り組みで、年次大会前日に開催されます。昨年度の大会からは、このドクコン参加の権利を得た方々を「研究発表大会優秀報告者」と呼ぶこととなりました。ドクコン参加候補者(兼研究発表大会優秀報告者)を決定するべく、研究発表大会における大学院生セッションでの報告の中から大会委員会が評価・選出を行い、今年度は、以下の6名の大学院生を選出いたしました。誠にありがとうございます。なおこの6名の他に、一橋大学大学院橘樹さんも2023年度研究発表大会優秀報告者に選ばれておりますが、既に2023年度年次大会のドクコンに参加されていることもあり、2023年度研究発表大会優秀報告者としての選出のみとさせていただきます。

[2024年度年次大会ドクコン参加候補者・2023年度研究発表大会優秀報告者]

一橋大学大学院 石崎啓太さん

早稲田大学大学院 近藤祐大さん

一橋大学大学院 孫彦鵬さん

一橋大学大学院 橘樹さん ※2023年度年次大会ドクコン参加者

東京大学大学院 花原杏珠さん

神戸大学大学院 林部由香さん

筑波大学大学院 山本将也さん

※五十音順

あわせて、昨年度の大会におけるドクコン参加者および大会優秀報告者についても、下記のとおり、紹介させていただきます。事後報告となり申し訳ございません。そして、おめでとうございます。

[2023 年度年次大会ドクコン参加者・2022 年度研究発表大会優秀報告者] ※50 音順

一橋大学大学院 于雷さん

早稲田大学大学院 宇都宮沙織さん

埼玉大学大学院 小方真さん

一橋大学大学院 橘樹さん

北海道大学大学院 山口久瑠実さん

冒頭でも書かせていただきましたが、今回は 3 大会ぶりの研究発表大会での対面開催となりました。良くも悪くも「オンライン慣れ」しつつあった私たちが、一転、対面での大会参加/大会報告へと回帰したことで、種々のイレギュラーな事態への対応、難しい意思決定に直面することが何度かございました。これらをなんとか乗り切れたのは、開催校実行委員会の先生方のご尽力、また常に前向きにご対応くださる大会委員会の先生方がいたからです。また大会委員会の活動をバックアップしてくださった高橋会長をはじめとする理事の先生方、そして何よりも常に包括的かつ的確なアドバイスを下さる事務局お二人の献身なくしては不可能だったと思います。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

***2024 年度組織学会年次大会（関西大学）のお知らせ**

2024 年度組織学会年次大会は、2023 年 10 月 28 日（土）、29 日（日）に、関西大学にて開催されます。今大会は『組織論的視点の浸透』と題する、実に魅力的なプログラムとなっております。その他、編集委員会セッション、大会委員会主催のモーニング・ミーティング、ランチョン・ミーティングなども企画しております。それぞれのセッションの内容は、時間をかけて練りこまれた質の高い内容となっておりますので、期待してご参加いただければと思います。

組織学会大会委員会担当理事 井上 達彦

2023 年度組織学会研究発表大会 開催校挨拶

2023 年度組織学会研究発表大会は、6 月 24 日（土）・25 日（日）の 2 日間、研究発表大会としては 2019 年以來の対面形式により開催されました。

開催をお引き受けした時から対面での開催を模索してきましたものの、準備を本格的に始めた 2022 年初頭はまだ対面開催が予断を許さない状況であり、さまざまな選択肢を模索しながら準備を進めてまいりました。懇親会におきましても、ぜひ開催してほしいという声がある一方で、懇親会は必須ではない、立派な懇親会は要らないというご意見をいただくこともあり、開催校としては悩ましい判断となりました。結果的には、2023 年はまるで過去のことなど忘れたかのように対面開催の社会的正統性が得られ、ぶじ開催することができませんでした。

研究発表数は、大学院生セッションで 18 本、研究発表セッションで 63 本、計 81 本と、多数のご報告をいただきました。参加者数（参加登録人数）が 420 名以上、懇親会参加者数が 220 名以上と大変な盛況で、かつ当日の欠席者がほとんどなく、参加者の皆様も久々の対面の研究発表大会を楽しみにされていたことが窺えました。

また 1 日目の午後に、特別セッションを行いました。「イノベーションの時代、日本企業の方向性は大丈夫なのか？－異なる領域からのアプローチと研究者の課題－」と題し、藤本隆宏先生（早稲田大学ビジネス・ファイナンスセンター研究院教授、東京大学名誉教授；経営学／ものづくり経営）および加登豊先生（同志社大学大学院ビジネス研究科教授、神戸大学名誉教授；会計学／管理会計）の 2 名がご登壇され、司会を具承桓が担当しました。両先生とも言うまでもなく当該分野の大家であり、領域の異なるお二方によるイノベータータイプの議論が展開されました。大教室は後ろまで満員になり、事前に数百部準備した資料が足りなくなるほど多くの方が参加し、熱い議論を交わしたことからわかるとおり、非常に好評なセッションでした。

開催準備にあたって多大なるご助力をいただきました事務局の樋口様、および大会委員会の皆様方には、心より御礼申し上げます。ご参加いただいた皆様にとって、参加してよかったと思える大会であったなら、主催者として幸甚です。

今回の開催にあたっては、開催校特有の困難や大変さも実感いたしました。今後、開催を担当される大学の方々におかれましても、多々ご苦勞のあることかと存じますが、盛会の続くことを心よりお祈り申し上げます。

2023 年度組織学会研究発表大会実行委員長（京都産業大学） 具 承桓
実行委員会・開催校一同

【2】2024 年度組織学会年次大会のお知らせ

2024 年度組織学会年次大会（関西大学）を、以下の通り開催いたしますので、会員の皆さまには、奮ってご参加いただきたく、よろしくお申し込み申し上げます。

日時：2023 年 10 月 28 日（土）・29 日（日）

開催校：関西大学 千里山キャンパス（対面開催）

大会テーマ：「組織論的視点の浸透」

組織論の知見・視点から、さまざまな現象について我々は何をどこまで、どのように解明し議論することができるのか。改めて、様々な領域の知的活動において、組織論的視点がどのように活用されるのか、皆で検討し対話する機会を提供したいと考えています。

プログラムは、以下の企画より構成されています。

- (1) 基調講演「ウェルビーイングと組織マネジメント」
- (2) 特別セッション I・II「ウェルビーイング」「データ・サイエンス」
- (3) 12 テーマのレギュラー・セッション
開催校、大会委員会、編集委員会の企画によるもの
- (4) ランチオン・ミーティング I・II「『経営学の危機』を超えて」
初日に、開催校挨拶あり
- (5) モーニング・ミーティング「経営学の質問箱」
- (6) 会員総会
- (7) 懇親会

今回、開催校の企画として、戦略、歴史、イノベーション、ヒューマン・リソース・マネジメント、アントレプレナーシップ、安全マネジメントといった問題群に組織論を掛け合わせたセッションを設けます。それらにダイバーシティや機械学習、起業家教育、NPO、根本概念という多彩な大会委員会の企画セッションや編集委員会の企画セッションを加え、4 会場に分かれて、合計 12 のテーマについて各 80 分間のレギュラー・セッションを両日午前中に配置しました。いずれも現代の社会問題に関わるテーマであり、学会員の多様な関心にも応えられることを期待しております。

午後は、基調講演と特別セッションを配置しています。1 日目の土曜日は、近年さまざまな学問領域で取り上げられている「ウェルビーイング（幸福）」について、基調講演と特別セッション I が開かれます。基調講演では、「ウェルビーイングと組織マネジメント」というテーマで、ウェルビーイング研究のパイオニアであられる矢野和男氏（株式会社ハピ

ネスプラネット代表取締役 CEO、株式会社日立製作所フェロー、東京工業大学連携教授)より、データ・サイエンスを駆使して分析されてきた「幸せで生産的な企業」についての知見を共有していただきます。つづく**特別セッションⅠ**では、森永雄太(上智大学)の司会進行の下、國分裕之氏(ANA 商事株式会社 代表取締役社長)、荒木勤氏(富士通株式会社 Employee Success 本部 Employee Relation 統括部長)、河崎保徳氏(ロート製薬株式会社 取締役 CHRO)にご登壇いただき、ウェルビーイングと組織について幅広い観点からパネルを展開していただきます。そして、2日目の日曜日の午後の**特別セッションⅡ**は、進展著しい「データ・サイエンス」についてです。「見えないものが見えてくるとき、拓けてくる研究フロンティア」というテーマについて、矢田勝俊(関西大学)の司会進行の下、鷺尾隆氏(大阪大学)、津本周作氏(島根大学)、里村卓也氏(慶應義塾大学)がご登壇して、幅広い議論をしていただきます。

これらに加えて、昼食休憩時間と朝の早い時間に3つの特別企画を設定しました。まず、**ランチョン・ミーティング**では、両日に渡り「『経営学の危機』を超えて」というテーマで議論します。初日は、佐藤郁哉(同志社大学)にご登壇いただき、「ワクワクする研究」について考える機会を頂戴します。2日目は、李振氏(関西大学)が「AIが切り拓く経営学研究の可能性」を語ります。両日ともに、**お弁当(要事前予約)**をご用意しておりますので、昼食をとりながらの、カジュアルなスタイルでご参加ください。初日の朝の**モーニング・ミーティング**では、若手研究者が「経営学の質問箱」という経営学研究に関する質疑応答とネットワーキングを兼ねた企画を準備してくれています。ここでは、「いまさら聞けない質問」を広く会員の皆さまから大会専用ホームページ上で事前に受け付けて、それに対して、ベテラン研究者を中心に対話していく形式が採用される予定です。

このように、盛りだくさんの研究企画とともに、年次大会としては4年ぶりに**懇親会**が開催されます。千里山キャンパス内において、皆さまがリラックスして、大いに語り合い交流できる場をご用意いたしますので多くの会員の皆様のご参加を期待しております。

最後に、関西大学千里山キャンパスは、大阪梅田駅から阪急電鉄千里線で約25分の「関大前」駅から、徒歩5分程度のところがございます。お手数をお掛けして誠に申し訳ございませんが、ご宿泊については、各自でご手配いただきますよう宜しくお願いいたします。

皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

なお、大会に関するお知らせにつきましては、大会専用ホームページ

(<https://confit.atlas.jp/guide/event/aaos2024nenzi/top>)にて随時掲載いたします。

2024年度組織学会年次大会 実行委員長 原 拓志

実行委員会一同

【3】2024年度組織学会研究発表大会のお知らせ

2024年度組織学会研究発表大会は、2024年6月22日（土）・23日（日）の両日、明治大学において開催される予定です。会場の手配上、開催キャンパスを確定できていませんが、駿河台キャンパス、和泉キャンパスのいずれかとなります。明治大学では、2007年度年次大会以来の開催となります。

本年5月には新型コロナウイルス感染症が2類から5類感染症に変更され、私たちの暮らしはコロナ前に戻りつつあります。学会においても、6月6月24・25日京都産業大学において、3年ぶりの対面による研究発表大会が開催され、多数の参加者が集い、活発な研究報告と交流が行われました。オンラインの良さもありますが、学会での対面開催の重要性を改めて感じた方も多いかと思います。2024年度の研究発表大会もその意義を継承し、対面による研究発表・交流の場づくりに努めたいと考えております。

研究発表大会は、院生セッション、研究発表セッションを中心としたプログラムとなります。年明けには報告公募のご案内をいたしますので、会員のみなさま、ぜひ研究発表のご検討、ご準備をお願いいたします。

参加者のみなさまにご満足いただけるような研究発表大会となりますよう、実行委員会一同、鋭意努力いたしますので、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年度組織学会研究発表大会（明治大学）実行委員会

【4】ドクトラル・コンソーシアムについて

6月の研究発表大会の大学院生セッションで報告した方の中から、大会委員会が選んだ大学院生を、その年の秋の年次大会時に開催する「ドクトラル・コンソーシアム」（ドクコン）にご招待いたします。大会委員会の選考基準は「組織科学に投稿して採択されるような論文になることが期待される報告」です。大会委員会で選ばれた方には、研究発表大会終了直後に「インビテーション・レター」をお送りいたします。ドクコンはその年の年次大会前日にほぼ丸一日かけて開催されますので、ドクコンご参加の意思確認をいたします。ドクコン参加者の当該年次大会の参加費は免除します。

ドクコンは、いわゆる Paper Development Session です。ドクコン参加者は、全員が『組織科学』仕様の（投稿規定に則った）論文を持ち寄り、オーガナイザーの指導の下、互いに切磋琢磨することを求められます。ドクコン提出論文は、「組織学会ドクトラル・コンソーシアム査読付報告論文」と明記できるようになりますが、それに満足することなく、

ドクコン終了後できるだけ速やかに修正し、『組織科学』等に投稿されることを強く希望いたします。

そして、ドクコン開催日の夜（あるいは翌日の夜）には、ドクコン参加者のご希望にできるだけ沿えるよう、数人のシニアの学会員をお呼びして、懇親会も開かれます。くつろいだ雰囲気の中で、先輩研究者とのカジュアルな対話を通して、良い研究とはどのようなものか、研究を行う上での手ごかりや悩み、研究者としてのあり方などを考える贅沢な時間をお楽しみください。

大会自体はコロナ前の対面開催に回帰しつつありますが、ドクコンについては、オーガナイザーや参加者の地理的な条件を踏まえて、オーガナイザーが開催形式を柔軟に選択する形となっております。オンラインの場合であっても、若手研究者を育成しようとするオーガナイザーの先生方の熱意は潰えません。

最後になりますが、昨年度の大会より、ドクコン参加者を「組織学会研究発表大会優秀報告者」と称することが決まっております。ドクコンに参加することで研究をブラッシュアップする権利を得ると同時に、参加した時点で、大会で報告を行った大学院生報告者の中でも、特に優れた報告者と学会に認められた、ということの意味します。学会として賞状等を授与するという事は致しませんが、参加者の皆様は、自身が「優秀報告者」であることを履歴書等にお書きいただくことが可能になります。ドクコンに関心を持たれた大学院生の会員は、まずは大学院生セッションでの報告に奮ってご応募ください。それがドクコン「インビテーション・レター」への最初の一步となります。

大会委員会

【 2023 年度 組織学会高宮賞 】

2023 年度組織学会高宮賞は、以下の通り決定いたしました。

【著書部門】受賞者該当なし

受賞者：該当なし

著書名：該当なし

【論文部門】

受賞者：該当なし

論文名：該当なし

2023 年度組織学会高宮賞 審査報告

審査委員長 武石 彰
担当評議員 浅羽 茂
水越 康介
沼上 幹

2023 年度の組織学会高宮賞の審査を高宮賞審査委員会で実施いたしました。その結果を報告させていただきます。

誠に残念ながら、著作部門、論文部門ともに該当作なし、という結果となりました。これまでどちらかの部門で該当作がなかった年はありませんでしたが、両部門とも該当作なしとなったのは初めてのこととなります。このような結果となった審査の経緯についてご説明いたします。

論文部門で該当作がなかったのは、審査対象となる条件「期間中に刊行された、正会員による論文で著者全員が40歳以下」を満たす論文がなかったためです。論文の内容によるものではありませんでした。

著作部門につきましては、二点が審査対象となりました。具体的な内容には立ち入りませんが、いずれの著作についても優れた点がありました。従来の組織科学研究が本格的にはとり上げてこなかった事象を多角的に分析している、設定した高い研究目標に向けて長期・大部のデータを用いて体系的分析を展開しているといった点です。特に、一冊については、書籍という形式によって初めて可能になる方法、データ、議論を駆使した野心的な研究となっており、その点を高く評価する声がありました。ただ、目標、結論に向かう論理や根拠に課題が残っており、慎重に審議を重ねた末に、受賞作なしとの結論に至りました。

例年、高宮賞受賞作の発表は、組織学会にとって喜ばしい、寿ぐ瞬間となるわけですが、本年度はそのような機会を持つことができず、審査委員会として、組織学会として、誠に残念に思います。優れた研究成果を表彰し、若手による組織科学研究を促し、支援することは、組織学会にとって重要な責務だと思います。現在、若手を対象とするCFPが実施されるなど、そのような責務を果たしていくための取り組みがなされていると理解しておりますが、このような取り組みをさらに拡充、加速し、次年度以降は、多くの候補作が対象となり、コンスタントに受賞作が生まれることを願って、審査報告の結びとさせていただきます。なお、最後になりますが、審査を担当していただいた審査委員の皆様がこの場を借りて改めてお礼申し上げます。

審査委員長 武石 彰

【新入会員紹介】

2023年度(第19期)には、正会員93名、準会員(個人)26名、準会員(団体)3社が入会しました。また、準会員から正会員へ会員種別を変更した会員は2名でした。

【総務関係】

【1】年会費納入のお願い

当学会は2023年9月1日より2024年度(第20期)に入っております。年会費として正会員の方は12,000円、準会員・個人会員の方は8,000円のご納入をお願いいたします。

ご請求内容につきましては、会員管理サイト「SMOOSY」の会員マイページにてご確認ください。

(会員管理システム(SMOOSY):会員マイページのご案内)

会員マイページ URL : <https://aaos.smoosy.atlas.jp/mypage/login>

ログインID : ご登録済のメールアドレスをご入力ください。

パスワード : ご登録済のパスワードをご入力ください。

1. ゆうちょ銀行(郵便払込取扱票)および銀行振込の方

2023年9月上旬に、ご指定の送付先に郵便払込取扱票を発送しております。

金額等をお確かめのうえ、支払い期限(2023年11月30日)までにお支払い手続きをお願いいたします。

2. 銀行自動引落(口座振替)の方

2023年9月27日にご指定の口座から振替いたしますので、お確かめください。

お支払い手数料は当方にて負担いたします。また、口座振替入金事務手続き後に領収書を発行いたします。こちらは手続き上の関係で確認までお時間を頂戴いたしますので、確認後に会員管理サイト「SMOOSY」より領収書発行が可能になります。

3. 請求書をお申し込みいただいた方

年会費の請求書発行につきましては、会員管理サイト「SMOOSY」の会員マイページより、随時発行可能でございます。

4月に請求書の郵送はいたしませんので、ご自身で請求書発行をお願いいたします。

※一部会員には滞納や支払遅延がみられ、予算執行上の扱いや決算時の未払い会費処理等で、運営上の問題が発生しております。会員の皆様には事情をご理解いただき、何卒速やかなお支払いをお願い申し上げます。

【2】大会出席・委任状送付のお願い

2024年度組織学会年次大会では、2023年10月29日(土)に会員総会が開催されます。会員総会は、組織学会の重要な議決機関です。また、今回の会員総会は、特定非営利活動法人としての総会も兼ねております。特定非営利活動法人の総会開催には正会員の5分の1以上の出席が必要とされております。正会員の皆様方には、是非ともご出席いただきますようお願いいたします。

やむを得ずご欠席の場合には、学会ホームページより「委任状」をご提出くださいますようお願い申し上げます。ご欠席の可能性がある場合にも、委任状の提出をお願いいたします。委任状をお送りいただいた上で総会にご出席された場合、委任状の総数から出席人数を差し引きます。

2024年度会員総会 電子委任状送付 URL :

<https://www.aos.or.jp/contents/join/poa.php>

総会出席、ならびに委任状の送付は、すべての正会員の皆様の意向を確認するための措置です。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

【2024年度 若手学会員を対象とする研究支援について】

組織学会では、組織研究を活性化するために、若手学会員の英文論文の執筆・発表や共同研究等を奨励・促進する研究支援を、下記の通り実施します。

＝ 記 ＝

A) 英文論文の校正支援(1件当たり5万円)

(1) 支援内容

- ① 組織科学英文年報や国際ジャーナルに英文論文を投稿する論文、国際コンファレンスや海外の学会で発表するフルペーパー(アブストラクトのみの場合は支援対象外)の英文校正費用を対象として、1件当たり5万円を研究奨励金として組織学会より補助します。

(2) 応募条件

- ① 応募締切時において40歳未満の正会員が第一著者であることが必要です。

- ② 再応募も可能ですが、一度支援を受けた場合には、最低2年間は再応募できないものとします。

(3) 応募手続

- ① 応募者の連絡先や投稿先などを、規定のフォーマット(組織学会ホームページに掲載)により申請してください。
- ② すでに投稿済みの場合には、受理レター(プリントアウト・コピー等でも可)を添付してください。
- ③ 締切は年3回(12月・3月・6月)設けます。2024年度は、2023年12月1日(金)、2024年3月8日(金)、6月7日(金)を期日とします。
締切後の1ヵ月後を目途にお知らせいたします。
- ④ 組織学会事務局宛に、必要書類を添付ファイルとして電子メールで送付してください。受付は締切日の17時までとします。

(4) 支援決定後の手続等

- ① 支援決定後に投稿する場合は、研究奨励費受領から1年以内に投稿することが望めます。投稿後は、受理レター(プリントアウト・コピー等でも可)を組織学会に提出してください。
- ② 学術ジャーナル・学会予稿集などに採択され、掲載が決定した場合には、掲載論文に組織学会より補助を受けている旨を明記し、抜き刷り(電子ファイルもしくはハードコピー3部)を組織学会事務局に提出してください。

B) 若手会員を中心とする共同研究(1件当たり10万円)

(1) 支援内容

- ① 代表者およびメンバーの半数以上が、応募締切時点で40歳未満の正会員である共同研究を対象として、1件当たり10万円を研究奨励金として組織学会より補助します。

(2) 応募条件

- ① 共同研究のメンバー全員が正会員で、代表者およびメンバーの半数以上が応募締切時点で40歳未満であることが必要です。
- ② メンバーの所属先は、複数の機関であることが望めます。
- ③ 継続申請も可能ですが、原則として最長2年までとします。

(3) 応募手続

- ④ 参加メンバー氏名、研究テーマおよび内容等を、規定のフォーマット(組織学会ホームページに掲載)により申請してください。
- ⑤ 締切は年1回(3月)設けます。2024年度は、2024年3月15日(金)

を期日とします。

- ⑥ 組織学会事務局宛に、必要書類を添付ファイルとして電子メールで送付してください。

(4) 支援決定後の手続等

- ⑦ 研究グループは自らの責任において活動し、研究奨励費受領から1年以内に研究成果報告書を、組織学会事務局宛に提出してください。研究成果報告書は、組織学会ホームページで公開します。
- ⑧ 研究成果については、研究発表大会・年次大会などで発表することが望めます。他学会等で研究成果を発表する際には、組織学会からの補助を受けている旨を明示してください。論文などとして学術誌等に掲載が決定した場合には、組織学会より補助を受けている旨を明記し、抜き刷り（電子ファイルもしくはハードコピー3部）を組織学会事務局に提出してください。

【 事務局より 】

【 1 】 銀行口座自動引落（口座振替）結果状況確認について

会費の銀行口座自動引落（口座振替）自動引落は、三菱 UFJ ニコス株式会社(NICOS)の収納代行サービスを利用しております。そのため、内容確認のためにお時間をいただきますので、何卒ご了承ください。

【 2 】 会員情報の登録変更について、(会員管理システム (SMOOSY) を使用)

2023年8月18日より、会員管理システム (SMOOSY) を新規導入いたしました。会員の皆様におかれましては、会員データ登録内容（所属、住所、電話、FAX、メールアドレス等）に変更が生じた場合は、以下の URL より、会員情報の変更登録をお願いいたします。

(会員管理システム (SMOOSY) : 会員マイページのご案内)

<https://aaos.smoosy.atlas.jp/mypage/login>

- ・ログイン ID : ご登録済のメールアドレスをご入力ください。
- ・パスワード : ご登録済のパスワードをご入力ください。

【 3 】 大会開催前後の連絡について

年次大会・研究発表大会の開催（土・日）において、事務局員は会議運営および諸準備のため、前日の金曜から現地入りしております。また恐縮ながら、翌月曜日は代休日とな

ります。その間、事務局宛の電話・FAX・メールを確認することができません。ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

なお、次の2024年度組織学会年次大会（関西大学）は、準備の都合上、金曜日のご連絡はお受けすることができません。

組織学会通信 第93号

2023年9月20日

発行 特定非営利活動法人 組織学会
事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-5-2
三菱ビル 地下1F 171区外

TEL : 03-5220-2896

FAX : 03-5220-2968

URL : <https://www.aaos.or.jp>